

2025 年度日本気象学会東北支部 第 1 回理事会 議事録

日時：2025 年 7 月 1 日（火）15:30～17:30

場所：仙台管区気象台第 2 会議室 対面及びオンライン開催

参加者（敬称略） 鎌谷、岩村、岡前*、中野*、平野*、橋本、早坂、谷田貝（以上理事）、
武田*（会計監査）、伊藤、岩渕、丹野、間野（以上幹事）

（*：オンライン参加者）

欠席者（敬称略） 森本、山崎（以上理事）

司会：議題 2 まで間野幹事、議題 3 から橋本理事

議題 1. 新支部長の互選及び理事・幹事の補充

理事の互選により、鎌谷理事（仙台管区気象台長）が支部長に決定した。

他、議案のとおり理事及び幹事を補充することについて承認した。

議題 2. 事業等の担当役員の選任

担当理事を議案のとおり選任することについて承認した。

議題 3. 2024 年度事業報告

（1）東北支部理事会の開催（間野幹事）

理事会の開催について報告した。

（2）東北支部だより発行（間野幹事）

支部だよりの発行について報告した。

（3）東北支部気象講演会（間野幹事）

昨年度の気象講演会（山形開催）について報告した。

（4）東北支部気象研究会（橋本理事）

昨年度の気象研究会と発表者賞について報告した。

早坂：「日本気象学会東北支部発表賞」の名称を「優秀賞」等に変更してはどうか。

谷田貝：研究内容そのものを評価するような名称はどうか。

岩渕：JpGU では「優秀発表賞」がある。

橋本：「日本気象学会東北支部優秀発表賞」ではどうか。

一同承認。これに伴い支部細則を一部改正（賞の名称変更）する。なお、「日本気象学会東北支部発表賞選考実施要領」についても改正する必要がある。（理事会終了後確認。）

（5）日本気象予報士会東北支部と連携した活動（気象サイエンスカフェ東北）（岡前理事）

昨年度のサイエンスカフェ（会場は仙台管区気象台）について報告した。

(6) 日本気象学会小倉奨励賞の推薦 (岩村理事)

昨年 12 月に天気で募集があり、支部内に周知したが、推薦はなかった。

議題 4. 2024 年度会計報告 (丹野幹事)

昨年度の第 2 回理事会からの変更点は、支部日より第 100 号の発行支払い分を支出に加算した点である。他は前回報告から変更なし。

議題 5. 2024 年度会計監査報告 (武田会計監査)

2024 年度会計報告について誤りがないことを確認した。

議題 6. 2025 年度事業報告

(1) 東北支部理事会の開催 (間野幹事)

2024 年度第 2 回理事会で決定したとおり、支部発表賞に関する臨時理事会を定例の理事会とするため、年 3 回開催予定。議論が必要な場合は、臨時理事会を開催する。

(2) 東北支部日より発行 (間野幹事)

年 2 回の発行を予定する。2024 年度第 2 回理事会で決定したとおり、PDF 作成まで業者へ依頼し、印刷は行わないこととする。

(3) 東北支部気象講演会 (平野理事)

今年度は福島県で開催する。まだ具体的には決めていないが、開催日は例年通り 11 月か 12 月くらいを予定したい。会場は 100 名程度、オンライン配信も行うハイブリッド方式で開催したいと考えている。テーマは地域の方々の関心が高いテーマにしたい。

早坂：講演会の開催県の順番はどう決まっているのか？

間野：2021 年に決定した順番で開催していると聞いている。

谷田貝：順番では、今年度は青森県開催かと思っていた。

橋本：青森県では、昨年度（気象台主催の）防災・気候講演会を実施している。講演会が連続しないように振り分けたと記憶している。

早坂：宮城県では開催しないのか？

橋本：宮城県では、（気象台主催の）防災・気候講演会を毎年開催している。宮城県以外の 5 県では持ち回りで防災・気候講演会を開催している。

橋本：昨年度の第 2 回理事会で来年度以降の講演会開催予定について事務局から説明を行った。青森県での気象講演会は令和 9 年を予定している。

（参考：2024 年度第 2 回理事会議案書から抜粋）

講演会まとめ

■ 防災気象講演会(5年に1回ペース) → ★ 防災気象講演会と気候講演会を統合した講演会
 ◎ 気候講演会(本庁から講師出張)
 ◆ 気象学会の気象講演会

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	R09	R10
青森		■				■				□			★			☆				
	◎			◎					◎										◇?	
盛岡				■			■					※					☆			
	○	○	○		◎		○			◎										
秋田			◆					◆						◆						◇?
	○		◎				■		◎		□						☆			
仙台	■	■		■	■	■	■	■	■	■	■	※	※	□	☆	□	□	□	□	□
	◆						◆					◆						◆		
山形		◎		○		◎		■			◎			☆					☆	
				◆						◆						◆				
福島	■				■				■											☆
	○					◎						◎								
					◆								◆				◆			

※R02年度、R03年度はコロナ禍の影響により防災気象講演会は開催されなかった。
 またR03年度以降は地台で開催される防災気象講演会と気候講演会は統合されることとなった。

(4) 東北支部気象研究会(橋本理事)

今年度も気象台の東北地方調査研究会との合同発表会を考えている。現在のところ、12月16日開催の可能性が高い。決まり次第早めにお知らせする。発表者募集等については、例年通り事務局より案内する。

伊藤：東北地方の気象に関する研究に東北支部以外で取り組んでいる方もいる。例えば、茨城大学や筑波大学など。その方々から、東北支部気象研究会で発表したい、または聴講したいという声も聞いている。細則で発表賞は東北支部会員から選ぶことになっているが、東北支部以外の方が発表・聴講することは可能か。旅費は先方の持ち出しと考えて問題ないかと思う。

橋本：発表賞については東北支部会員から選定となると思う。発表者については規定がない。

早坂：賞は東北支部会員のみと思うが、オープン参加として、東北支部以外から発表・聴講してもらうのはよいと思う。

谷田貝：例年オンラインの利用はどうであったか？

橋本：昨年度はオンライン配信を行ったが、オンライン聴講者からの発表、質疑応答はなしとしていた。

谷田貝：アクセス数に制限はあるのか？

丹野：Zoomで配信したと聞いているが、制限に関しては今すぐに回答できない。Teams利用であればアクセス制限はなかったと思う。(理事会後に確認したところ、昨年度はZoomで100アクセスまで接続可能な設定で実施していた。なお、昨年度は岡前理事を通して、気象予報士会東北支部会員にも開催情報を流し、限定30名でオンライン聴講を受け付ける旨案内を送った。)

谷田貝：意見交換の場にもなるので、支部会員以外にも来てもらうのはよいと思う。

橋本：本研究会は気象台との合同開催でもあるので、理事会として前向きに気象台と調整してみる。今後の方針決定については、書面審議（臨時理事会の書面開催）ではどうか。気象台では地震や火山の発表もあり、気象関係の発表数には制限があることもご理解いただきたい。

伊藤：発表件数は調整しなくてはならないと思う。

橋本：気象台としては、地震や火山の分野も含め、2日間で発表できる件数を調整しているが、気象台としても東北支部会員以外からの発表があるのは悪い話ではないと思う。

谷田貝：今は申し込みが簡単なので、発表希望件数が増える可能性はある。

伊藤：聴講は問題ないと思うが、発表条件については考える必要があると思う。

早坂：理事の推薦が必要とか、何らかのルールは必要と思う。

今後の方針決定については、気象台側と調整しつつ、書面審議（臨時理事会の書面開催）を行うこととなった。

（５）日本気象予報士会東北支部と連携した活動（気象サイエンスカフェ東北）（岡前理事）

例年通り、サイエンスカフェを開催するが、詳細はこれから検討する。場所は仙台かその近郊、時期は11月から12月を想定している。テーマは会員の皆様からヒアリング等を行いながら決めていきたい。

（６）日本気象学会小倉奨励賞の推薦（岩村理事）

例年12月、1月に募集がかかる。募集が出たら支部内に案内を出すので、ご協力お願いする。

上記（１）から（６）の計画案について承認した。

議題 7. 2025 年度予算案（丹野幹事）

本部からの交付金について振り込みが確認できたため、その金額となっている。他は2024 年度第 2 回理事会議案のとおり。支部だよりの印刷等をやめること等により、事務局の業務委託費を捻出している。

早坂：業務委託費 20 万円の想定は？

丹野：委託に関しては議題 8（１）で取り上げる。

谷田貝：支部だよりは郵送費もかからないということでよいか。

丹野：よい。

谷田貝：交通費に関してだが、青森から研究会で発表するために来るとなると交通費がかかる。東北支部研究会で発表する時に東北支部から交通費を出してもらえというのが学生に学会加入を勧める際の売りにもなっている。予算案では研究会の予算が 50,000 円となっているが、この中に交通費も含まれるのか。青森県からの発表者が多くなった場合は補填が効くのか。

早坂：一つの大学で旅費の大部分を占めるのは他の会員からの見た目もあるので多少考える必要があると思う。

丹野：研究会での発表数も含め、適宜、ご相談しながら運用していきたい。

2025 年度予算案について承認した。

議題 8. 検討事項

(1) 支部事務局雑務の業者委託について（間野幹事・橋本理事）

昨年度の理事会で合意が得られたことから、事務局雑務を業者に委託する検討を行っている。東北大学生協同組合の見積もりは高額で、現状の予算内で収めることは困難。そのため、委託する業務を絞ることや、予算に近い報酬で個人（気象庁 OB 等）に委託することが可能かも検討中である。なお、本部で学会運営の将来構想検討ワーキンググループ (WG) を設置し、委託等についても検討を始める動きがあるので、支部としては、そちらの動きも注視しつつ検討していく必要がある。

橋本：気象庁 OB への委託が可能かあたっているが、現在の事務全体を請け負うのは厳しいとの反応。イベントの会場確保や機材の準備など、外とのやり取りを行う場合、全体を把握しなければならないということもあり困難である。そういったことを除けば、請け負ってもらえる可能性もあるので、業務の切り分けが必要。

早坂：6 月の全国理事会で間野幹事から説明があった WG の設置が認められた。支部との意見交換で気象台の負担が大きいという意見もあり、本部としても検討していかなければならないと考えている。（本部理事会資料「学会運営の将来構想検討 WG の設置について」説明。）全国大会は、2027 年度から春は JpGU とし、秋季大会のみ学会での単独開催となる。大会は今でも一部外部委託しているが、お金の問題も大きい。収入に対してどの程度学会運営ができるかを検討する必要がある。WG は比較的若手のメンバーで構成されており、1 年間をめどに活動・報告することになっている。

橋本：今この場で決められることはない。今後業務の切り分けを行う。

早坂：今年度の 20 万をどのように有効に使うか、また、本部の WG に対して、支部の動きをインプットすることが必要。

橋本：気象庁 OB も可能性はあるが、細かい部分を理解してもらわなければならない。予算はあるが、すぐに委託に踏み切るのは難しい。本部の動きも見ながら、理事に相談しつつ、検討を進めていきたい。

鎌谷：気象台の職員が事務局の事務を全部担うことは負担が大きい。外部委託できないか、全てを外部委託するのは高額であるなら、本部で支部の事務のある程度の部分を一括して担っていただき一部を支部に残して外部委託する、といったことも含めて検討していく。

橋本：仮に委託をすることになると、何らかの契約が必要となる。支部は法人化してい

るわけではないので、本部が支払うことになるのかもしれない。

鎌谷：本部に事務を担っていただくのか、支部にどの程度事務を残すのか、といったことも含めて本部 WG で決めるのではないだろうか。その動きを見てから検討するのではどうか。

早坂：WG の回答はすぐには出てこないため、今年度予算での検討も必要と思う。

橋本：昨年度の議案書で委託費としてあげているということは、支部から報酬を渡すことが可能なのか。本部に確認が必要と思う。

谷田貝：委託業務は仙台にいないとできない仕事なのか？

丹野：離れていても可能とは思いますが、近くにいた方が便利な部分もあると思う。

谷田貝：遠隔（オンライン）でよければ、昔秘書をやっていた人に頼むこともできるかもしれない。予算の 20 万円くらいでも可能かも。

伊藤：サイエンスカフェは必ず仙台でやるのか？

岡前：そういうわけではないが、人が集まりやすいことを考えると大きい都市がいいと思う。ただし、実際に飲みながら食べながら実施するとなると、公共の施設では難しいこともある。以前に、地方の喫茶店で開催するのもよいのでは？という話もあったが、興味がある人の割合は低い。そんなこともあり、ずっと仙台で開催している。

橋本：この場では結論が出ないので、引き続き事務局を中心に検討を進めることにする。

（2）2031 年度の秋季大会について（早坂理事・間野幹事）

・事務局から議案書の訂正：×秋季学会→○秋季大会。

早坂：（別紙：天気原稿にて説明。）この変更により、400 件くらいの口頭発表が可能となる。申込数が少し多いようなら抽選、600 件に達する等、非常に多い場合は別の方法を考える必要はある。大事なことは口頭発表の時間を 15 分確保すること。支部と本部の間でどう役割分担するかはまだ決まっていない。学会運営の WG が 1 年で案を出し、2027 年度から変更する。

間野：そろそろ 2031 年度の大会について、会場と日程を考えていかなければならない。

大会日数などの変更もあるので、本部事務局と連絡を取りながら進めていきたい。

早坂：会場費が大きいので、いくらまで出してもらえるかを本部に聞いた方がよい。

橋本：場所は仙台に限らなくてもいいのかもしれない。仙台開催の場合、条件がよいのは国際センターしかないと思う。

早坂：大学という可能性もある。

伊藤：別紙には、秋季大会の開催時期を夏にずらす可能性についても書いてあった。本部からは、次回は国際センターでやらないでほしいとお願いされている。

橋本：すぐには決められないが、会場をどうするかはそろそろ考えなければならぬ。

国際センターなら 5 年前くらいから押さえておかなければならないと聞いていた。

谷田貝：盛岡には大きい会場があるかもしれない。

早坂：中部支部は三重大で開催した。盛岡なら交通の便もいいと思う。

伊藤：盛岡駅前のアイーナ（いわて県民情報交流センター）という選択肢もある。

橋本：まずは本部事務局と相談しながら、仙台に限らず検討していくことにしたい。

伊藤：東北支部の運営に参加してもらう範囲を広げるというのはどうか。例えば、茨城大、筑波大など。

橋本：盛岡開催の場合、岩手大からの協力は難しいか？引き続き検討することにしたい。ご協力をお願いします。

議題 9. その他（事務局から）

（１）東北支部会員数（個人会員）（間野幹事）

会員数は昨年に比べて7名増となっている。メーリングリスト登録者は8名増。

（２）旅費等について（丹野幹事）

運賃改正がないため、昨年度のままとする。

以上